冬の山

ダイチ

冬山よ。

お前はそんなにもどっしりと盤石にかまへて

をキーンと天空へ打ちかへすのだ

さうかと思へば

眠りつくいのちをぢっと抱きしめて

そはそは芽吹き上がる赤子にを忘れたことはないのだ

冬山よ。

お前はねじり伸びた樹々らを剥きだしにして

私の眼前にとして迫り

私の煤けた魂をきっぱりと洗い流す

ひび割れ凍てつく岩の肩から

深い皺のやうな小川を私の足元へと運び

と泉を湧きあげて

私の生気を目一杯に満ち広げる

山よ、冬山よ。

こんなにも故郷を守り

こんなにもいのちを育む

私たちの父親よ

今宵も、漠漠とした雄姿を誇れ

さぁ、その鋭いを夕陽とともに町へと鳴らせ